

行仙宿・連休前点検整備とNHK取材協力

◇ 実施日：平成26年4月19日(土) 晴

◇ 参加者：沖崎吉信、川島 功、児嶋道夫、畑林秀味

NHK和歌山放送局放送部記者：斉藤基樹 計5名。

◇ 作業内容

・トイレ3箇所(LED電灯設置(対人感知)。(児嶋)

・ロケット・ストーブにドラム缶を被せ熱効率向上。(児嶋)

・食材・調味料等の在庫調査。(川島・畑林)

・管理棟毛布干し。(川島・畑林)、取り込み。(全員)

・行仙宿と行仙岳(捲道も)・水場径の点検(沖崎・斉藤記者)

・佐田の辻から約50m南側の大松の倒木処理。(全員)

・中の峪ガレ場崩壊防止箇所寸検。(沖崎・川島)

・浦向道丸太架設橋と林道合流地点迄の道点検。(川島・児嶋・畑林、斉藤記者)

・荷上品：ドラム缶。(川島)・缶ビール2箱。(沖崎・畑林)

◇ NHKの取材について

3月18日突然の電話あり。「新宮山彦ぐるーぷホームページ」を見た。その活動の歴史・内容等にびっくりしました。是非一度玉岡さんに話を聞きたいし、現地へも行って見たいとの斉藤記者の話であった。

以後日程調整もあり何回か電話でのやり取りがあった

斉藤記者は、昨秋東京から和歌山へ転勤となり、もともと昆

虫(特に蝶類)に興味があつて山に出かけることも多く、和歌山着任後も何回か山歩きをやった様である。和歌山の山調査の過程で「シヨータンの山歩録」から当ぐるーぷを知ったと聞いた。

本日行仙宿へ行く迄、個人の趣味の延長なのか番組取材なのかの不安もあつたが、行仙宿の建物とその維持管理具合、上記作業内容や登山口からのドラム缶や缶ビールの荷上を目の当りにして、その思いも強くした様でニュース内の一ページでなく、ドキュメント番組の価値があり、是非実現したいとの強い気持を感じた。

下山後、その日の夜、翌日の午前中もNHK新宮駐在員の渡邊記者、たまたま別番組の為、新宮へ来ていたディレクターの近藤氏の兩名を加え、川島・山上・沖崎の計6名で内容等を説明・懇談した。

どのように実現されるかは判らないが、相当前向きの話であつた。ハード面だけでなく、玉岡さんが延々と書き続けて来た記録・レポートにも強く感動していた。

◇ その外感想

連休前に少しでも荷上と思つていた矢先、児嶋さんからトイレ内の電灯とロケット・マス・ヒーターにドラム缶を被せ燃焼・熱効率を向上させたい、その段取りをつけた。土曜日に行こうとの誘いを受け本日の荷上となった。やや小さめと言つてもドラム缶である、代表が背負子に付けたがバランス保持は大変だったろう。

沖崎・斉藤記者で行仙岳と水場を担当した。特に水場探しとその道造りの大変さを理解して頂いた様で、小型ビデオで記録されていた。斉藤記者は、昆虫の中でも蝶が好きで、昨年だった

か一昨年だったか「ヒマラヤのブータン王国の珍しい蝶」の番組を担当したとのことであった。

登山口からの荷上時も行仙岳・水場への途中でも又、昼食時の会話に於いても、ここまでやったことについて相当の評価を頂き、千日刈峰行から30周年、世界遺産登録から10周年の節目に当たり特集番組に取上げて頂けそうである。

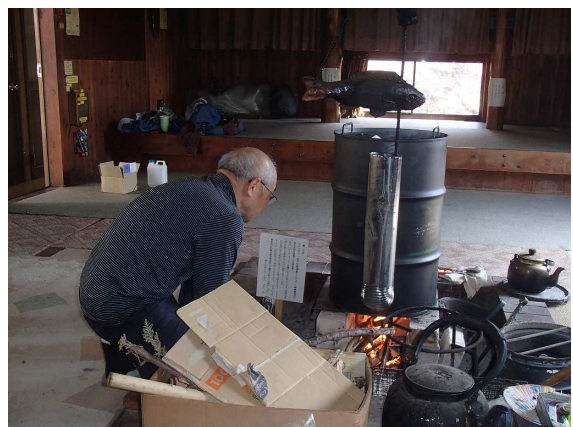
これも玉岡さんの40年間の血と汗との結晶である、相談役の一日も早い全快を祈るばかりである。
(沖崎 記)

行動タイム

新宮 7:00→8:25 登山口 8:45→9:30 行仙宿↓各自分担作業↓
11:40 昼食 13:10→作業↓行仙宿 14:30→浦向道→15:20 林道
15:40→登山口 15:50→上葛川経由→17:40 新宮。



いざ出発!



ドラム缶を被せたロケット・ストーブ



作業を終えて記念撮影・佐田ノ辻